

平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

中学校 特別活動

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	学習評価の観点	1
3	中学校特別活動の目標	2
4	中学校特別活動の「内容のまとめり」	2
5	中学校特別活動の「評価の観点」とその趣旨の作成	2
6	中学校特別活動における評価規準作成手順の例と作成のポイント	4
7	特別活動における学習評価の進め方	5
8	中学校特別活動の評価体制の確立及び指導と評価の年間計画の作成	5
9	中学校生徒指導要録の記録	7
10	中学校特別活動における評価の事例	7
11	学級活動、生徒会活動、学校行事の評価規準例（参考）	17

1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠と言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

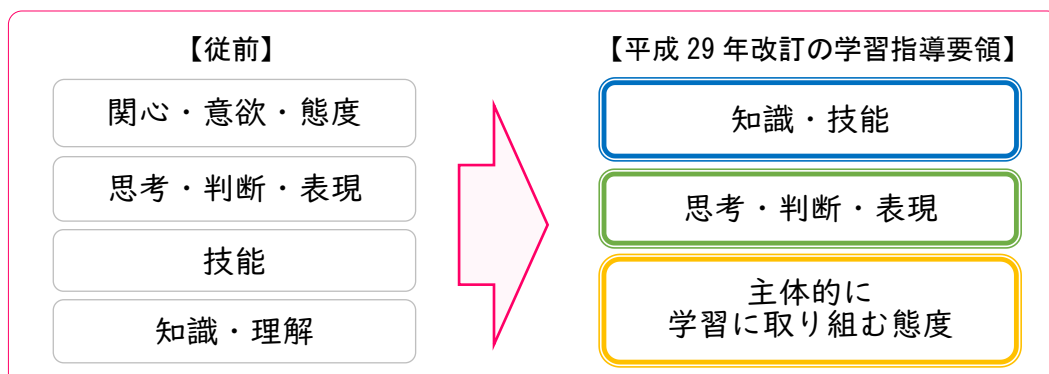
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



3 中学校特別活動の目標

学習指導要領において、全ての教科等の目標は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。中学校特別活動の目標は次のとおりです。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等

学びに向かう力、
人間性等 ※



※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

4 中学校特別活動の「内容のまとめり」

中学校特別活動における「内容のまとめり」は、次のとおりです。

学級活動・・・(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

生徒会活動

学校行事・・・(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事、
(4) 旅行・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事

5 中学校特別活動の「評価の観点」とその趣旨の作成

中学校特別活動の評価の観点については、中学校学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し、改善等通知の例示を参考に、各学校において作成することとされています。特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的に評価の観点及びその趣旨を設定します。



① 学習指導要領「特別活動の目標」と改善等通知【別紙２】【別紙４】を確認します。

改善等通知【別紙２】〔２〕４ 特別活動の記録の要点

- ・評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙４＊を参考に定める。

＊別紙４：各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）

② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を各学校で設定します。

【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨を基にした例（改善等通知【別紙２】
【別紙４】の例示を基に具体的に観点を定めた例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。



特別活動には三つの重要な視点があります。「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」です。この三つの視点は、育成を目指す資質・能力に関わるもので、学習の過程においても重要な意味をもちます。これらの視点を基に重点化を図って設定した、評価の観点及びその趣旨の例が以下の三つです。

【特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」）を基に重点化を図った例】

互いのよさを生かす関係をつくるための知識・技能	協働してよりよい集団生活を築くための思考・判断・表現	主体的に多様な他者と関係をつくらうとする態度
個人と集団との関係性および集団活動の意義を理解し、社会生活におけるきまりやマナーに則った行動の仕方を身に付けている。	様々な場面で、自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働している。	様々な集団に積極的に所属し、他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境のもとで互いの可能性を発揮できる関係を築こうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「社会参画」）を基に重点化を図った例】

集団の一員として活動するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	よりよい社会の形成に向けて主体的に自己を生かす態度
学級・学校集団や社会生活の中で他者と協力して役割を果たすことの意義を理解し、そのための話合いの進め方を身に付けている。	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成したり、個人としての実践目標を意思決定したりしている。	現在及び将来の自己の活動や役割を振り返ることで、成長や課題を認識し、これからの集団生活の改善に生かそうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「自己実現」）を基に重点化を図った例】

将来の自己と学びを結びつけるために必要な知識・技能	自己の生活課題を改善するための思考・判断・表現	主体的に人間としての生き方を選択しようとする態度
将来の社会的・職業的な自立と現在の学習とのつながりを理解し、自己の生活をよりよくするために個性を活かす方法を身に付けている。	集団の中で、個々人が共通して直面する現在及び将来に関わる課題を発見するとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定している。	日常の生活や自己の在り方を自主的に改善するとともに、将来を思い描き、自分らしい生き方を主体的に選択しようとしている。

6 中学校特別活動における評価規準作成手順の例と作成のポイント



各学校で作成した評価の観点や育成を目指す資質・能力を基に、学習指導要領で示された各活動・学校行事の「内容」に即して、評価規準を作成します。

【学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」を例にした手順】

- ① 自校で作成した特別活動の評価の観点を確認します。
- ② 「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示されている「学級活動（１）において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校において育成を目指す資質・能力を設定します。
- ③ 観点ごとに評価規準を作成します。

【観点ごとの評価規準作成のポイント】

観点	評価規準作成のポイント
知識・技能	・「知識・技能」は、話合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。 ・学習指導要領解説における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認します。 ・文末を「～を理解している」「～を身に付けている」とします。
思考・判断・表現	・「思考・判断・表現」は、話合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。 ・「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとします。 ・文末を「～している」とします。

主体的に学習に取り組む態度	・「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。 ・身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述します。 ・各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。 ・文末を「～しようとしている」とします。
---------------	---

7 特別活動における学習評価の進め方

手順	留意点
①指導と評価の計画の作成	○ 特別活動の全体及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成します。
②評価のための基礎資料の収集	○ 計画に基づいて、評価のための基礎資料を収集します。
③評価の実施	○ 収集した資料を各学校で定めた所定の手続きに従って総合的に学習状況を判断し、評価を行います。
④評価体制の改善	○ 評価結果を各学校における指導や評価体制の改善に生かします。

8 中学校特別活動の評価体制の確立及び指導と評価の年間計画の作成

(1) 評価体制の確立

特別活動は、学級担任以外の教師が指導することが多いので、評価体制を確立し、共通理解を図ることが重要です。また、生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにします。



評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることも必要です。

	評価体制の主な留意点
学級活動	・主に、学級担任が事前の見通しから事後の振り返りまでの生徒の様子から、よさや可能性を見取るようにします。
生徒会活動 学校行事	・個々の活動状況について、学級担任と担当の教師との間で情報交換を密に行います。 ・担任が評価のための資料を活用しやすいように、資料の収集方法を学校で工夫します。

(2) 指導と評価の年間計画の作成



各学校において、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた年間計画を作成することが大切です。特に、生徒会活動と学校行事については、それぞれの目標やねらいが十分達成できるように、内容に応じて、年間、学期ごと、月ごとなど、よく検討して適切に授業時数を充てるようにします。

各活動・学校行事ごとの 評価規準の作成

各学校で評価規準を設定する際には、「参考資料」第2編を活用し、学級活動、生徒会活動、学校行事について、観点ごとに設定することが考えられます。

p. 17、18 参照

「目指す生徒の姿」の設定

1 単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す生徒の姿」を、具体的に設定することが考えられます。

指導と評価の年間計画作成のポイント

- ・学校の教師全員で創意工夫すること。
- ・中学校入学から卒業までの3年間を見通して、学校の目標を達成できるようにすること。
- ・可能な限り、生徒自らの発案、創意を大切に（自発的、自治的な活動を尊重する）こと。
- ・各教科、道徳科、総合的な学習の時間との関連を図ること。
- ・活動における家庭や地域の人々との連携などを工夫すること。

など

【指導と評価の年間計画（第2学年の学級活動）の例】

月	題材	学習内容			ねらい	目指す生徒の姿		
		(1)	(2)	(3)		知・技	思・判・表	態度
4	新しい学年をむかえて	ア			2年生としての心構えをもたせる。			
	学級目標をつくろう	イ	ウ		友人と協力して、よりよい学級生活を築いていこうとする態度を育てる。			
	学級の係を決めよう	イ	ア		必要な仕事を考え、役割分担の意義を考えさせる。			
5	学習方法を振り返ろう			ア	学習習慣の改善を測ろうとする態度を養う。			
	体育大会に向けて	ウ	ア		団結して活動に取り組む意義を考えさせる。			

各活動・学校行事ごとに設定した育成を目指す資質・能力及び評価規準に即して、「目指す生徒の姿」を具体的に設定し、共通理解を図っておくことが重要です。

9 中学校生徒指導要録の記録

各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入します。十分満足できる活動の状況にあると判断される「生徒の具体的な姿」について、各学校で共通理解を図っておくことが重要です。また、評価の総括を行う際には、「学級活動の内容項目(1)～(3)のうち、2個以上が○なら学級活動に○を付ける」「学級活動(1)を重視している場合は、内容項目(1)だけが○の場合でも学級活動に○を付ける」など、各学校で統一した考え方を共有することが不可欠です。



【中学校生徒指導要録（参考様式）様式2（第2学年）の記入例】

特別活動の記録					
内容	観点	学年	1	2	3
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		○	○	
生徒会活動				○	
学校行事		余白	○		

評価の観点の変更がある場合を想定し、余白をとっておきます。

全学年で共通した各学校で定めた評価の観点を記入します。

10 中学校特別活動における評価の事例

事例1 キーワード …… 学級活動の指導と評価

学級活動の内容は、(1)～(3)に分けられています。

学級活動(1)では、「学級生活の充実のための工夫」「生徒会活動や学校行事への参加や協力」のような題材から、学級の課題解決に向けての議題を決定し、合意形成を行います。

学級活動(2)(3)では、例えば「不安や悩みの解消」「充実した人生と学習」のような題材で、生徒が直面する課題の解決に向けて話し合ったり、将来について考えたりして、意思決定を行います。



1 学級活動で育成を目指す資質・能力【学級活動(1)】

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。
- 学級や学校生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践できる。
- 生活の諸問題上の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする。

2 評価規準【学級活動(1)】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

3 1 単位時間の指導と評価

(1) 題材名 「学級の係を見直そう」(1) イ 学級内の組織づくりや役割の自覚(第1学年)

(2) 目指す生徒の姿

学級の生活をよりよくするための課題を見だし、課題解決に向けた自分の意見を持ち、多様な意見を生かしながら合意形成に向けて取り組んでいる。

(3) 指導計画例

	学習内容及び学習活動	○目指す生徒の姿 【】評価の観点	・指導上の留意点 〈〉評価方法
導入	1 本時の活動内容と学習課題を確認する。	・活動内容と学習課題について分かりやすく説明する。 ・アンケート集計結果を発表し、課題を考えさせる。	
	学習課題：学級の係を見直し、よりよい学級づくりを目指す		
展開	2 係ごとに1学期の係の反省を発表する。 3 各係の反省点について個人の意見を記入する。 4 グループで意見を出し合い、意見をまとめた上で、2学期の係の案を決める(合意形成の場面)。 5 全体で2学期の係を決定する(合意形成の場面)。	・反省点が記入できるように、事前に、活動の反省点について個人で振り返らせる機会を設けておく。 ・学級目標を達成するために必要な係や活動内容を考えられるように、学級目標を意識させるようにする。 ・個人の意見をもつことができるように机間指導して、言葉掛けを行う。	
		○学級の生活をよりよくするための課題を見だし、その重要性を理解している。 p. 10 参照 【知識・技能】〈ワークシート、観察〉 ・グループ内で全員が発言をしながら意見を出し合えるように促す。 ・各係の活動内容とアンケート結果を踏まえ、係の精選についても検討させる。 ○課題の解決に向けて自分の意見をもった上で、友人の多様な意見を生かし、合意形成に向けて取り組んでいる。 p. 10 参照 【思考・判断・表現】〈ワークシート、観察〉	
まとめ	6 次回、各係での紹介カード作成に向けて、意見を考えてくる。 7 本時の活動を振り返る。	・学習課題の達成について考えさせるようにする。 ・係活動の今後の取組について触れる。	
		・学級をよりよくしていこうという視点に立ち、本時の話し合いに臨むことができたかどうか振り返る。	

4 評価方法の工夫

(1) ワークシートの記述内容を基にした見取り



生徒一人一人の話し合い活動の状況を1時間の授業で全て見取ることは困難なので、主にワークシート（資料1）の記述内容から見取ります。

学級の係を見直そう
年 組 ()

学習課題：学級の係を見直し、よりよい学級づくりを目指す

○1学期を振り返り、自分や係全体の活動についてまとめよう（個人）

	係活動1	係活動2
係名		
役割 (具体的に)		
学級への貢献度 (自分の活動)	%	%
学級への貢献度 (係全体の活動)	%	%
良かった点	「知識・技能」	
課題		

○学級をよりよくするために必要だと思う係活動を考えよう（個人→グループ）

係名	メモ（グループで出た意見や気づき）

○全体で出た意見から気付いたこと、考えたこと

「思考・判断・表現」

「知識・技能」の評価

本事例では、学級の生活をよりよくするための課題を見いだすことの重要性を理解しているかどうかについて評価します。自らの活動を振り返り、よかった点とともに課題を見いだすことができているか、課題を基に今後の案を考えようとしているかなどを見取ります。

「思考・判断・表現」の評価

本事例では、課題の解決に向けて自分の意見をもった上で、友人の多様な意見を生かし、合意形成に向けて取り組んでいるかどうかについて評価します。異なる意見の許容や協働の意識などが見取りのポイントとなります。

資料1 ワークシート例

(2) 合意形成に向けた活動の見取り



「発言内容」「意見の調整、合意形成」などの視点で、話し合い活動における生徒の発言を確認しながら、顕著な場合にチェックするなどして、可能な範囲で記録します。グループでの協議や全体での意見交流の場面における発言の記録が主なものになります。

評価を総括する際に、ワークシートの記述内容と合わせて、評価のための資料とします（資料2）。

視点	確認した発言（→◎：十分満足できる活動の状況と教師が判断）
活動の目的を理解して発言ができているか	生徒A これまでと一緒にいいと思う。 生徒B 仕事が増えるのはいやだな。 生徒C もっと学級が明るくなるような係があったらいいよね。→◎ 生徒D 係が少なくメンバーが多いのはよくないよね。あと、〇〇係は学級への貢献度が高いので、継続した方がいいと思うよ。→◎

	生徒A でも、人が少ないと仕事が増えるからどうかな。 生徒C 一人一人役割があった方が、学級が盛り上がって、いい雰囲気になると思うけどな。→◎
意見を調整、合意形成に向かって発言しているか	生徒E 自分は絶対に○○係になりたい。 生徒F みんながしたい係をすればいいと思います。 生徒G ○○さんは○○と言ってるけど、○○という意見もあるよね。→◎ 生徒H ○○係には課題があるみたいだから、○○係を新しくつくったらどうかな。→◎ 生徒G ○○さんの意見に賛成。 生徒F 係の数は今出ている○個でいいと思うけど、系の活動内容についてはどうですか。→◎

資料2 話し合い活動における生徒の発言の記録例

5 評価の記録の蓄積



特別活動の評価では、「生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認めるようにすること」「特別活動で育成を目指す資質・能力がどのように成長しているかということについて、個人の活動状況を基に評価を進めていくこと」が大切です。そのためには、資料3のような記入シートを作成し、見取りを蓄積して活用することも重要になります。授業中に記録を行うことは難しいため、活動後に記録の機会を設けるなどしましょう。評価の総括については p. 7 を併せて御確認ください。

令和○年度 学級活動の評価 記入シート（教師用）						
			○年	○組	○号	氏名 ○○ ○○
内容	観点	評価規準	1 学期		2 学期	
			メモ		メモ	
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	知・技	学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	4/9 ○ 4/13 ○ 5/10 ○ 6/7 ○		9/1 ○ 9/13 ○	
	思・判・表	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	4/9 ○ 4/19 ○ 5/24 ○ 6/7 ○ 6/21 ○		9/1 ○ 9/13 ○ 9/27 ○	
	態度	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。	4/9 ○ 4/13 ○ 5/10 ○ 6/7 ○ 6/21 ○		9/13 ○ 9/27 ○	
(2)	〃	〃	〃	〃	〃	〃

特別活動の評価は、最終的に十分満足できる活動の状況であれば○を付け、そうでなければ付けないことになります。この資料のように、十分満足できる活動の状況であったかどうかを蓄積し、評価の総括につなげるようにします。

資料3 評価の蓄積のための記入シート（3学期制の例）

事例2 キーワード …… 生徒会活動の指導と評価



生徒会は一般的に、生徒会役員会、各種の委員会等の組織から成り立ちます。その中で、「生徒総会」では、各学年、各種の委員会等から活動方針や活動計画が提案されます。その提案について、各学級で討議されます。生徒会活動においても、育成を目指す資質・能力や評価規準、目指す生徒の姿などを、各学校で明確にしておく必要があります。

1 生徒会活動で育成を目指す資質・能力

- 生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義やその活動のために必要なことを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- 生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合いを行い、「合意形成を図る」、「意思決定をする」、「人間関係をよりよく形成する」ことができるようにする。
- 自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かし、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養う。

2 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解している。 全校の生徒をもって組織する大きな集団での活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 全校の生徒をもって組織する大きな集団における課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしている。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かし、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活改善を図ろうとしている。 3年間や全校という視野で見通しをもったり振り返ったりしながら、よりよい生活を築こうとしている。

3 議題及び目指す生徒の姿

- (1) 学級活動における学習課題
 - ・学級審議を十分に行って生徒総会に臨もう。
- (2) 生徒総会における学習課題
 - ・生徒会執行部及び各委員会の目標及び年間計画案について審議を行おう。
- (3) 目指す生徒の姿
 - ・生徒会活動の意義を見だし、活動のために必要なことについて理解している。
 - ・生徒会執行部や各委員会からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えている。

4 指導計画

(1) 学級活動における指導計画

	学習内容及び学習活動	○目指す生徒の姿 【】評価の観点	・指導上の留意点 〈〉評価方法
導入	1 議案書審議のねらいを共有する。 2 学習課題を確認する。 学習課題：学級審議を十分に行って生徒総会に臨もう		・当日までに議案書を読ませ、疑問点などを事前にま とめておくことができるようにする。 ・審議のねらいを全体で共有することを再確認する。
展開	3 学級代表が生徒会執行部の基本方 針を提案する。 4 班ごとに審議（協議）する。 5 各委員会担当から提案する。＊ 6 審議のために学級の意見を出し、 共有する。＊ ＊委員会を前後半の半分に分け、5・ 6を繰り返す		・個人で意見をもっているかを確認しながら、全員に 発言の機会が生まれるよう、机間指導を行う。 ○生徒会執行部や各委員会からの提案が、学校生活の 充実と向上につながる活動になっているか考えてい る。 【思考・判断・表現】〈観察〉
まとめ	7 本時を振り返る		・学習課題の達成について考えさせるようにする。 ・生徒総会について触れる。 ○学級生活の充実や向上を図るために自治的に活動す ることの意義を理解している。 【知識・技能】〈観察、振り返りシート〉

(2) 生徒会活動（生徒総会の例）における指導計画

	学習内容及び学習活動	○目指す生徒の姿 【】評価の観点	・指導上の留意点 〈〉評価方法
導入	1 開会のあいさつを行う。 2 議案書審議のねらいについて共有す る。		・建設的な話し合いになるように、審議のねらいを全 体で共有する。
展開	3 生徒会執行部から目標や年間活動計 画案を提案する。 4 審議を行う。 5 各委員会から目標や年間活動計画案 を提案する。 6 審議、合意形成する。 7 決定事項を確認する。		・提案に対して、個人で意見をもてるようにする。 学級活動での議案書を基にした協議を踏まえて参 加させる。 ○生徒会執行部や各委員会からの提案が、学校生活 の充実と向上につながる活動になっているか考え ている。 【思考・判断・表現】〈観察、振り返りシート〉
まとめ	8 活動を振り返る。		○集団の形成者として、多様な他者と、互いの個性 を生かして協力し、積極的に学校生活の充実と向 上を図ろうとしている。 【主体的態度】〈観察、振り返りシート〉

5 振り返りシートの記述内容を基にした見取り



生徒会活動についても、生徒一人一人の話し合い活動の状況を1時間の授業で全て見取ることは困難なので、主にワークシートや振り返りシート（資料4）などの記述内容から見取ります。

振り返りシート				
〇年 〇組 〇号 氏名 〇〇 〇〇				
〇をつけよう！ 4（よくできた）、3（できた）、2（あまりできなかった）1（できなかった） →	4	3	2	1
1 主体的に学級の話合いに臨むことができた。				
2 生徒会執行部の提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができた。				
3 各委員会からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができた。				
4 学校生活の充実と向上のために、学校全体の課題を見いだそうとすることができた。				
5 学級や学校のために、自分が頑張って取り組みたいと考えていることを書きましょう。（自由記述）				

「主体的に学習に取り組む態度」

資料4 振り返りシート例

「主体的に学習に取り組む態度」の評価
資料4の5は自由記述の欄です。このような欄を設けることで、学級活動での協議内容や生徒会活動を振り返らせ、学校生活の充実と向上につながる活動を具体的に考え、今後実践していこうとしているかを見取ります。

「思考・判断・表現」の評価
資料4の2～4は自己評価の欄です。生徒の自己評価や相互評価は学習活動なので、そのまま見取することは適切ではありませんが、参考になる資料として活用し、生徒の学習意欲の向上につなげるようにします。

6 補助簿を活用した評価の記録



資料5は、生徒会活動について、委員会活動の様子や行事への協力の様子について見取るための補助簿の例です。委員会活動や行事への協力の様子など、それぞれの担当者が協力し、必要に応じてメモ欄に記載するなどして、評価に生かすことが考えられます。

令和〇年度 生徒会活動の評価 記入シート（教師用）							
番号	氏名	委員会活動（前）			委員会活動（後）		
		知	思	態	知	思	態
1	A	○	○	○	○	○	○
2	B	○			○		
3	C	○	○	○	○	○	

厚生委員会副委員長 実行委員会をはじめ、日程調整や計画立案に積極的に取り組んだ。

①安全委員会 安全点検をまじめに行った。
②緑化委員会 鉢の植え替えを行った。

広報委員会書記 広報のための新しいアイデアを幾つも提案した。

資料5 評価を蓄積するための補助簿【生徒会活動】例

目指す生徒の姿に照らして、十分満足できる活動の状況と考えられる場合、○を付けるようにします。資料5は、前後期制の例です。年間を通して所属する委員会が変わることもあるので、年度末の総括についても、各学校で共通理解を図り、方針を明確にしておくことが重要です。

事例3 キーワード …… 学校行事の指導と評価



学校行事は、五つの種類に区分される内容に沿って各学校で計画・実施し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う活動です。全校又は学年を単位として活動することになります。学校行事においても、育成を目指す資質・能力や評価規準、目指す生徒の姿などを、各学校で明確にしておく必要があります。

1 学校行事で育成を目指す資質・能力【学校行事(3) 健康安全・体育的行事】例

- 他の生徒と協力して、日頃の学習や活動の成果を生かしながら、体育的な集団活動の意義を理解し、体育的な集団活動に必要な知識や技能を身に付ける。
- 他の生徒と協力して、日頃の学習や活動の成果を生かしながら、運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組んでいる。
- 集団や社会の形成者として、互いに努力を認めながら協力し、運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとしている。

2 評価規準【学校行事(3) 健康安全・体育的行事】

	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から安全に身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付けている。体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けている。	自他の健康や安全について他者と協力して、適切に判断し実践している。 運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組んでいる。	運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとしている。 見通しをもったり振り返ったりしながら、健康安全・体育的行事に積極的に取り組もうとしている。

3 目指す生徒の姿

- ・ 体育大会の意義を見だし、学級が団結して体育大会に臨むために必要なことについて理解している。
- ・ 他の生徒と協力して、日頃の学習や活動の成果を生かしながら運動することのよさについて考えている。

4 指導計画（学級活動における指導計画）

	学習内容及び学習活動	○目指す生徒の姿 【】評価の観点 ・指導上の留意点 〈〉評価方法
導入	1 本時の活動内容と目標を確認する。 学習課題：体育大会に向けて、学級のスローガンを決めよう	・ 活動内容と目標について簡潔に説明する。

展開	2 大運動会で学級が団結するために必要なことを考える。 3 漢字一字で意気込みを表す。  4 全員分の一文字を確認する。 5 4の内容を踏まえ班ごとに協議し、学級旗に記すスローガン（四字熟語）を創作する。 6 全体で協議し、大運動会へ向けた学級の合い言葉として相応しいスローガン（四字熟語）を決定する。 個人の意見を紹介した板書	・個人で考えさせる。その後、よい意見を学級全体で共有するために、数名に発表を促す。 ○体育大会の意義を見だし、学級が団結して体育大会に臨むために必要なことについて理解している。【知識・技能】〈観察〉 ・全員分の文字が見えるように提示し、簡潔に紹介する。 ・国語の教科書や国語辞典などを活用しながら、工夫して四字熟語を作成させるよう促す。 ・どのような思いを込めて創作したのかについて発表するように促す。
まとめ	7 振り返りを記入する。 8 教師の話を聞く。  授業後に完成させた学級旗	・授業を振り返り、目標の達成について考え、発表させる。 ○体育大会の意義を見だし、学級が団結して体育大会に臨むために必要なことについて理解している。【知識・技能】〈観察、振り返りシート〉

5 振り返りシートの記述内容を基にした見取り

評価を行う際は、生徒の学習状況が、「目指す生徒の姿」と照らして十分満足できる状況かどうかを判断します。本事例における学級活動での目指す生徒の姿は、「体育大会の意義を見だし、学級が団結して体育大会に臨むために必要なことについて理解している」です。



評価の際に留意したいことは、総括で○がつくかどうかだけではなく、全員が「目指す生徒の姿」を達成できるように支援することです。

四字熟語をつかって、本番に向けて頑張ろうという気持ちが強くなりました。体育大会では、学級のみんで協力することが大切なので、今日の活動はとても意味のある活動だと思いました。決定したスローガンに込められた思いを意識しながら、協力していきたいと思います。

資料6 十分満足できる状況と判断した振り返りシートの記述（生徒L）

資料6は、十分満足できる状況と判断した生徒Lの記述内容です。生徒Lは、下線部のように、「体育大会の意義」や「学級が団結して体育大会に臨むために必要なこと」に言及しています。

四字熟語をつくったのが楽しかった。みんなの意見は、なるほどと思う内容が多かった。他のクラスに自慢できるような学級旗が完成したらいいと思う。

資料7 十分満足できる状況に至っていない振り返りシートの記述（生徒M）

資料7は、十分満足できる状況に至っていないと判断した生徒Mの記述内容です。生徒Mは、活動自体を肯定的に捉えてはいるものの、「体育大会の意義」の理解などには及んでいません。

6 評価の記録の蓄積（学校行事全体）



学校行事においては、行事ごとに必要に応じて自己評価や相互評価を効果的に組み合わせながら、評価のための資料にすることが考えられます。資料8のような、教師の見取りや生徒の活動の記録を蓄積していくための記入シートなどを作成し、活用することも重要です。

令和〇年度 学校行事の評価 記入シート（教師用）						
(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊の行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事						
号	名	知	思	態	メモ	
1	A	(1)				
		(2)	○	○		
		(3)	○	○	○	体育大会実行委員 実行委員会をはじめ積極的に取り組んでいる
		(4)				
		(5)	○		○	ボランティア活動に参加
2	B	(1)	○			
		(2)	○	○	○	合唱コンクールパートリーダー 開始時の言葉掛け
		(3)				
		(4)	○			
		(5)	○		○	ボランティア活動に参加 中心になって取り組む 意欲的
3	C	(1)	○	○	○	生徒会会長 入学式で新入生に向けたあいさつ
		(2)	○		○	
		(3)	○	○		
		(4)				
		(5)	○		○	ボランティア活動に参加
4	D	(1)				
		(2)	○	○	○	合唱コンクール実行委員 オープニングの工夫や審査の在り方の提案など創造的
		(3)	○	○		
		(4)	○			
		(5)	○			
5	E	(1)	○		○	入学式ピアノ伴奏
		(2)	○	○	○	合唱コンクールパートリーダー 練習方法の工夫
		(3)				
		(4)	○	○	○	修学旅行実行委員長 様々な企画を考えている
		(5)	○		○	

資料8 評価を蓄積するための教師用記入シート【学校行事】例

目指す生徒の姿に照らして、十分満足できる活動の状況と考えられる場合、○を付けるようにします。資料8では、学校行事の内容のまとめりに○を付ける欄を設けています。メモ欄のように、○の根拠となる大まかな活動の内容や、役割を残しておくことが重要です。また、全体の○の個数で判断する、いずれかの行事で顕著な姿が見られた場合は○を付けるなど、各学校で統一した考え方を共有することが不可欠です。



各学校で設定した評価の観点及びその趣旨を基に、各活動・学校行事の評価規準や目指す生徒の姿を設定していくことになります。そのための参考資料として、評価基準(例)を以下に挙げます。

【学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画の評価規準(例)」】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

【学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準(例)」】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。 多様な意見をもとに自ら意思決定して実践している。	他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。 自他の健康で安全な生活を構築しようとしている。

【学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準(例)」】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

【生徒会活動の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解している。 全校の生徒をもって組織する大きな集団での活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 全校の生徒をもって組織する大きな集団における課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしている。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活改善を図ろうとしている。 3年間や全校という視野で見通しをもったり振り返ったりしながら、よりよい生活を築こうとしている。

【学校行事の評価規準（例）】

観 点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
儀式的行事	儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解している。 規律や気品のある行動の仕方などを身に付けている。	学校生活の節目の場において先を見通したり、これまでの生活を振り返ったりしながら、新たな生活への自覚を高め、気品ある行動をしている。	厳粛で清新な気分を味わい、行事を節目として、見通しをもったり振り返ったりしながら、新たな生活への希望や意欲につなげようとしている。
文化的行事	美しいものや優れたものを創り出し、自ら発表し合ったり、芸術的なものや伝統文化を鑑賞したりする活動に必要な知識や技能を身に付けている。	日頃の学習活動の成果発表や芸術、伝統文化に触れ、個性を認め、互いに高め合いながら実践している。	文化的な視点から自己の成長を見通したり、振り返ったりしながら、自己を一層伸長させようとしている。
健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から安全に身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付けている。 体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けている。	自他の健康や安全について他者と協力して、適切に判断し実践している。 運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組んでいる。	運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとしている。 見通しをもったり振り返ったりしながら、健康安全・体育的行事に積極的に取り組もうとしている。

旅行・集団宿泊的行事	豊かな自然や文化・社会に親しむことの意義を理解している。 校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けている。	旅行・集団宿泊的行事において学校生活や学習活動の成果を活用できるように考えて実践している。	日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化・社会に親しみ、見通しをもったり振り返ったりしながら、新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとしている。
勤労生産・奉仕的行事	働くことの意義、社会的・職業的な自立について理解している。 ボランティア活動などの体験活動の仕方が身に付いている。	勤労生産や奉仕に関して自分のできることを判断し実践している。 多様な他者と協力してボランティア活動に取り組んでいる。	勤労観や職業観を深め進んで体験的な活動をしようとしている。 見通しをもったり振り返ったりしながら、社会奉仕の精神を養い、社会に貢献しようとしている。

参考資料

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』 平成 29 年 7 月 東山書房
- ・国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 特別活動】』 令和 2 年 6 月 東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所 『学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編』
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf
- ・田中 耕治 『学びを変える新しい学習評価』 令和元年 12 月 ぎょうせい
- ・国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 特別活動】』 平成 23 年 11 月 教育出版
- ・国立教育政策研究所 学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 平成 28 年 3 月 東京書籍
- ・文部科学省 『[別紙 4]各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学校）』
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1415195.htm